

明石工業高等専門学校図書館

## 図書館報

第45号 平成21年12月

## 目次

ダン・ブラウン著『天使と悪魔』	(1)
自著紹介	(3)
私と読書	(4)
図書館と私	(6)
読書感想文コンクール	(7)
推薦図書	(10)
利用統計	(11)
利用案内	(12)

## ダン・ブラウン著『天使と悪魔』

～反粒子（物質）について～

京 兼 純

昨年、日本人4名の先生がノーベル物理学賞と化学賞を受賞し、米国のサブプライムローン問題で景気が減速した我が国にとって、久々に明るい話題となり、私たち工学や科学技術を専攻している者にも勇気や希望がもたらされました。受賞の対象となったのは、皆さんも良く知っているとおりの素粒子理論と生物発光(緑色蛍光タンパク質の発見)でした。

ダン・ブラウン著の「天使と悪魔」は、重要なキーワードとして「反物質」が出てきます。本書は、昨年、映画化(トムハンクス主演)されて話題を呼び、社会現象的な謎ときゲームとなった「ダ・ヴィンチ・コード」より以前に書かれたものです。天使と悪魔もまたトムハンクス主演で映像化され、今春に大変なヒットをしました。本書の主題は「宗教と科学」ですが、後で少し触れることにして、反粒子(反物質)について述べたいと思います。

4人のノーベル受賞者のうち物理学賞を受賞した2人の先生(小林・益川理論)が対象となった論文は、粒子と反粒子の対称性の破れ(CP対称性の破れ)を説明するための基盤となるものでした。対称性の破れとは素粒子物理学において、自然界(宇宙)に存在する物質が反物質よりはるかに多いことをさします。小林・益川理論は3世代と呼ばれるクォーク(素粒子)を導入することで、CP対称性の破れを自然に説明ができるというものでした。ここでCPとは、Charge ConjugationとParityの頭文字をとったもので、やや難しくなりますが数学などで使われる演算子の積をあらわしています。反粒子という考えかたは、1928年イギリスの物理学者ディラックが量子力学で支配される電子の波動方程式のなかに、相対性理論を導入して新しくディラック方程式を提唱し、その解を求める過程で出てきました。ディラックの波動方程式には、正エネルギーと負エネルギーの両方の解を含んでいることがわかりました。つまり正エネルギーの解が通常の「負の電荷を持つ電子」とするならば、負エネルギーの解は「正の電荷を持ち、電子と同じ質量とスピンを持つ未知の粒子」と解釈することができます。この未知の粒子をディラックは「陽電子」と呼びました。

陽電子はディラックの予言とおり1932年に宇宙線の中から発見されることとなりました。現在では素粒子の多くが、それと同じ質量を持ち電荷が正・負反対である反粒子を持つことが知られています。

天使と悪魔を面白くしているのは、創作のなかに現実に存在するもの、過去に存在したものを上手くちりばめ臨場感を持たせ、読者を引き込ませていく手法をとっていることがあげられます。実際、本書の冒頭に出てくる欧州合同原子核研究所(CERN: Conseil Européen pour la Recherche Nucléaire の頭文字)は、加速器を用いて反物質の生成実験をしている実在の研究所で、スイスのジュネーブにあります。また CERN は日本をふくめ、世界中から多くの研究者が参加して共同研究を行っている関係で、研究者間の情報交換を効果的・効率的に進める必要があります。そこで CERN では、今日、私たちが大変恩恵を受けているインターネット通信のために定めた規則 (HTTP: Hypertext Transfer Protocol) , World Wide Web (WWW) を開発し、発祥の地としても知られています。物語は CERN で秘密裏に作られた1グラムの反物質(ここでは陽電子)が盗まれるところから展開していきます。簡単に1グラムの反物質といっても、作るのには宇宙の年齢(約137億年)の4倍はかかりますし、反物質を安定に閉じ込めておくにも相当の困難が生じます。小説では電磁気学の法則を利用して、小型の容器に閉じ込めてしまいます。盗まれた1グラムの反物質をめぐる、映画はトムハンクス扮する教授が謎ときをして見つけ出していく筋書きとなっています。

ここでは反物質がなぜ重要なキーワードとなるのでしょうか。私たちの身近にある半導体デバイスのなかに発光ダイオード(LED: Light Emitting Diode)があります。皆さんも使ったことがあると思いますが、発光ダイオードは半導体中で生成された電子とホール(正孔あるいは陽電子)が結合してエネルギー(光)を放出します。仮に多量の陽電子が生成され、電子と出会いますと莫大なエネルギーを放出しますので、やや空想的ですが本書に記述されているように究極のエネルギー源となり得ます。しかし一方では「負」の作用もあり、これを手玉にしたのが本書のミソともなっていますし、ミステリーの要素を加え、最終章では莫大なエネルギーの創生を軸としたビッグバンのどんでん返しがあります。後は皆さんの想像力にまかせます。

明石高専では「共生」という言葉を教育理念においています。共生は自然環境と対峙した「破壊」と表裏の関係となっています。作者は宗教と科学の根源的な問題に触れつつ、人間の心の持ちように光をあてています。高専での学生生活は、皆さんの頭脳が最も柔軟なときにありますので、常に図書館へ足を運び多くの書物と出会い、「創造の意欲」を念頭に人として生きていくための幅を広げて下さい。

(きょうかね じゅん 校長)

『天使と悪魔』上・下  
角川書店 2003年  
請求記号:933.0.D1,2

ダン・ブラウン著  
ISBN:4047914568, 4047914576  
登録番号:098953,4





## 自 著 紹 介

小池 勝

『流体機械工学』

コロナ社 2009年 ISBN:978-4-339-04474-4

請求記号:534.0.K 登録番号:101445

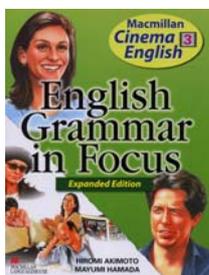
流体機械とは流体を扱う機械の総称です。モーターやエンジンの動力を流体に伝える、ポンプや送風機、身近には扇風機やエアコンのファンなどがあります。逆に流体のエネルギーを動力に変える、水車、発電用のタービンなどがあります。両方の機能を併せ持ったものに自動車などに使われるターボチャージャーがあります。本書では著者が得意とする内容に絞って書かれています。内容は次の通りです。1. 機械と流体とのエネルギー授受の原動力である、揚力の発生原理。2. 航空機の設計に役立つ翼の理論。3. 翼の特性（実験データ）。4. プロペラの作動原理と設計方法。5. 風車の作動原理と設計方法。6. 送風機、ポンプの作動原理。7. 流体機械の騒音。本書は学生向けの教科書ですが、他には無い内容が多く含まれているので、企業などの技術者にも有用と思います。

(こいけ まさる 機械工学科)

\*BOOK\* . . . . . \*BOOK\* . . . . . \*BOOK\*

## 自 著 紹 介

穂本 浩美



「English Grammar in Focus Expanded Edition

映画『ノッティングヒルの恋人』で学ぶ会話英文法  
改訂増補版」

マクミラン・ランゲージ・ハウス 2009年 ISBN:978-4-777-36348-3

私が中学の時に使っていた英語の教科書には不自然な英語表現が結構ありました。例えばトムとメアリーが会話をしている、メアリーの持っている写真を見たトムがこう聞くのです。“Is this your father or your mother?”（これはあなたのお父さんですか、それともお母さんですか？）男か女かは写真を一目見ればわかるのに、なぜこんな間抜けな質問をするのだろう、と中学生ながら不思議に感じていました。そんな自分の負の体験から、英語圏で普通に使われている英語を素直に楽しく学べる英語の教科書を作ろうと、ここ10年ほど映画を利用した教材作りをしています。今回は *English Grammar in Focus: Expanded Edition* というタイトルで、映画『ノッティングヒルの恋人』をベースにした本を書きました。映画の中の会話で文法ルールがどのように使われているかを学び、リスニングや会話練習が出来る構成になっています。皆さんが楽しみながら英語学習に取り組み、英語への興味を拓けてもらえればと願っています。

(あきもと ひろみ 一般科目)

## 私 と 読 書

坂戸 省三



『ソロモンの指環』 コンラート・ローレンツ著  
 早川書房 2008年 ISBN:4-15-208738-2  
 請求記号:481.78.H 登録番号:101444

私がいた大学の建築学科には、工学部ではありましたが、旧制大学以来の教養主義的な伝統が残っていました。例えば建築の根拠を人間のあり方全体のなかで哲学的に考えていくといったふうです。それで私もいろいろ難しい哲学的な本も読みました。そして心理学や精神医学の本。そうした読書遍歴のなかで、動物行動学を確立した人物であるコンラート・ローレンツの著作をとおして、はじめて、人間とは、そして生物とはどんなものなのかということに関して自分なりに納得できる理解を得ました。人間の心というか、いろいろな感情、気持ち、またものを考えていく方式そのもの、それらがどんな意味があり、何故そのようであるのかといったことです。

ローレンツの「ソロモンの指環」（早川書房）をすすめます。とても楽しくユーモアに満ちた本です。半世紀以上も前に書かれた本なので、内容的に一部古いところもありますが、考え方は新しい時代を切り開いたもので、洞察力にあふれています。

(さかと しょうぞう 建築学科)

\*BOOK \* . . . . . \* BOOK \* . . . . . \* BOOK \*

## 私 と 読 書

成枝 秀介



『笑う科学 イグ・ノーベル賞』 志村幸雄著  
 PHP 研究所 2009年 ISBN:978-4-569-77440-4  
 請求記号:377.7.S 登録番号:101472

イグ・ノーベル賞という賞をご存知だろうか？名前こそ「ノーベル賞」と似ているが、その中身は全く異なる。イグ・ノーベル賞とは、「人を笑わせ、そして考えさせる」研究に与えられるものである。受賞したテーマを見てみると、「犬語翻訳機バウリンガルの開発」や「カラオケの発明」など、かなり意外性のあるオリジナリティに溢れた研究テーマが多い。これらテーマより、イグ・ノーベル賞は独創的発想の重要性を改めて認識でき、かつ人々がもつ科学への純粋な興味をさらに加速させるような存在であることがわかるだろう。科学技術とは、我々の身の回りにあるものであり、もっと面白く興味深いものなのだ。

勿論、受賞するためには、単なる面白い思いつきだけでなく、しっかりとした科学的根拠に基づいた検証も併せて必要であることは言うまでもない。

(なりえだ ひですけ 電気情報工学科)

## 私 と 読 書



石田 祐

『選挙の経済学』                   ブライアン・カプラン著  
 日経B P社   2009年           ISBN:978-4-8222-4609-9  
 請求記号:311.7.B               登録番号:101439

歴史的な日となった2009年8月30日、日本における有権者、1億人超の7割近くが衆議院選挙で投票を行った。この日、7000万の人々は何を思って票を投じたのだろうか。

ここで紹介する『選挙の経済学』は、「投票者はなぜ愚策を選ぶのか」というある種、挑戦的な副題がついている。この本で問題とされていることを一言で表すと、人々の「思い込み (belief)」であり、投票者が誤った思い込みをもったとしても、それに満足すれば個人にとっては合理的な考え方となる。しかし、その思い込みは、政治家の掲げる政策（すなわち、選挙に勝つための政策提案）を左右し、社会的には誤った政策が実行されることになる。果たしてそんなことが起こりうるだろうか。この本は、アメリカの調査データを使って検証している。

今回の衆議院選挙では民主党が多くの国民に選ばれたわけであるが、そんなメカニズムが働いていたのだろうか。7000万人にはどのような思い込みがあるのだろうか。思い込みがあつたとしても、公共政策への関心を高めることが第一だろう。今後の日本の政策はどこにいきつくのだろうか。そんなことを思いながら、読んだ一冊である。

(いしだ ゆう 一般科目)

\*BOOK\* . . . . . \*BOOK\* . . . . . \*BOOK\*

### 購入希望図書案内

図書館に備えてほしい資料があれば、下記の申込書をカウンターに置いてありますのでお申し込みください。資料の種類は、図書、視聴覚資料などジャンルは問いません。可能な限りご要望にお応えしています。

#### 購入希望図書申込書

書名				
著者名	発行所	ISBN		
希望理由				
申込者氏名	学年	学籍番号		
連絡先	携帯電話 メールアドレス			

(平成20年度の購入希望図書申込は135件あり、129件の図書等を購入しました。)

## 私 と 読 書

香川 勝俊

「読書」という言葉は活字から情報・知識を得ることが連想されます。読書では点字等もありますが、活字が媒体となります。その他の媒体には絵、写真（映像）、図面・地図・表グラフ等の統計等があり、これらにはそれぞれの特色があります。しかし、活字は人間の感情・思想等の表現に適しています。活字自体も、それから作り出される文章も名文・悪文があるように結構難解です。古典等の心を打つ名作、貴重な歴史的資料は活字や文章の偉大さの証明です。元来、地図・グラフ・統計が好きで、楽しみであった私にとって、新聞は別として、労力を要する読書は好きではなく、中学・高校時代の読書感想文は苦痛でした。

よって、私にとって本に触れるのは、幼少時の絵本・漫画は別として、学習のため、当座の必要とする知識を得るためでした。転機は大学入学後に訪れました。大学の指導教官から最初の授業で「よき友、よき師、よき本」との言葉を教えられた時でした。これから学ぼうとする地理学の尊敬する先生からの第一声は今も鮮明に思い出されます。その後、折りにふれ本の重要性を体験しました。大学の地理学科に入学したものの地理の範囲は広く、授業は教官の得意分野が中心であり、関心のある都市地理学は不十分でした。都市地理学の専門家は全国・世界に分散していることが分かったのです。それ以降、勉強は自分で本を見つけて、自分で勉強するものだと思い本を探しました。しかし、方向づけ・随所でアドバイスを受けるため、師の存在も大きかったのです。

さて、科学技術は「もうこれくらいでよい」と思っているうちにまた進歩しています。人間のすばらしい能力に感心するばかりです。これは科学技術がそのまま後世に伝達できるからこそなのでしょう。ところで、人間の経験は？「亀の甲より年の功」と言う言葉を聞いたことはありませんか？ 経験が価値あるとの意味ですが、私は「体験しないことは分からない」の意味が含まれると解釈しています。人の命は限りがあり、個人の体験は後世に完全には伝えられません。自己の体験伝達、これを間接的手段ながら可能にするのが活字です。キリスト、孔子、釈迦、マホメットは聖人と言われています。それは文章でその教えが残されていることが大きいことは言うまでもありません。しかし、国語・英語等が好きでなかった私はテストの勉強のため、「覚えた方がよい」と授業で言われるがまま苦痛を伴いながら覚えました。しかし、年齢を重ねるほど暗記した古文等の意味が理解・味わえるようになり、感銘すら受けるようになってきました。今でも自然と口ずさめるものもあります。定年退職後、元来から好きな統計やグラフ作りについて時間が費やされますが、手元には読もうと貯め込んだ本がたくさんあります。

これまで幾多の書物からかけがえのない知識・勇気を得てきました。大切なことを教えてくれた本は通学・通勤時にも鞆の中に大切にに入れていました。このような体験がまだの方、急ぐ必要はありません。その時がくれば本の力を思い出して下さい。また一度だけの体験でなく何度も必要かも知れません。また読書も、人の話も「少しでも納得できないことは疑ってみる」「僅かでも疑念が残る場合は信じない」ことだと思えます。

(かがわ かつとし 一般科目教員OB)

## 平成21年度『読書感想文コンクール』入賞作品

### 藪の中にて

最優秀賞 都市システム工学科3年 平松 日祥

藪の中という作品は一見して、推理小説仕立ての短編小説である。しかし単なる犯人探しを描いたものではない。小説の形式は七人の証言を連ねるだけの分かりやすいものである。しかしその証言は一致せず、事の真相が分からぬままあっさり終わる。その読後感は気持ちの悪いものである。

芥川龍之介という作家は芸術というものを大変意識していたようで、とくにこの藪の中は芸術至上主義とも言える面が全面的に出ていた頃の作品である。そんな彼がこの作品に惚かせた想いというのは、とても興味深い。この作品の大きな特徴でもある証言の不一致は、人の主観と客観を上手く書き分けている。主観というものは人間の内面を映し出す鏡とも言えよう。



では、藪の中ではどんな感情が渦巻いていたのだろうか。一般的にこの話は全員が真実を述べており、物語の多面性、人の視点の違いを描いたのだらうと言われている。しかし、その全員が真実を述べているというのは、違和感があるように思う。なにせ全員の言い分が正しいとするならば、この男は三度も刺されたことになるのだ。別段、その嘘を暴くことで犯人を探したいわけではない。ただ、嘘をつくというのは特異な感情を抱いているものである。嘘を知ること別々の面から、藪を切り開いてみたいのだ。

多襄丸は自分が男を殺したと言い、女は自分が殺したという。男の霊は自殺をしたと言う。この中の誰かが嘘をついていたとしても、それは罪を隠すためではない。ならば何を隠すために、嘘をつくのだろうか。現実の人間も多くの嘘をついている。相手を思う気持ちからの嘘もあれば、保身やプライドのために嘘をつく場合も少なくない。何か大切なものを守るために人は嘘をつくの。その大切なものが褒められるものではなくとも、後生大事にそれを守っていくの。そんなに守りたいものは何だったのか。

この本は物事の多面性を書きつつ、人の嘘を書いたのではないだろうか。物事の確信と人の真理を書いたのだといえ、それはとても仰々しいもののように感じる。しかしそれが蔓延っているのが私たちの世界なのだ。そう思うと、私たちが日頃何の気なしに触れあっている世界が、ひどく恐ろしいもののように思えてしまう。そしてまた、私たちが互いのことを本当に理解するのが難解なように、この藪の中を解明することも難解なことなのだろう。

そう言えば、この藪の中は今昔物語集の話をもとにして書かれたものである。魍魎魍魎が跋扈している話の多い中で、その題材になった話は平凡であるように思う。芥川龍之介がそこに目を付けて藪の中を書いたのだとすれば、もしかしたら魍魎魍魎に値する大きな力である人の感情を、そこに練り込んだのではないだろうか。物事の多面性と嘘という、一つの社会とも思えるものを藪の中に作り出した芥川龍之介。そしてそこに吹き込まれた嘘や主観にまわりつく人の感情。そんな藪の中に、未だに多くの人々が魅入られるのは仕方のないことだろう。それに、よくよく考えてみれば今回感じた読後感というのは、短く突き放したような結末で終わる怪談に似ているのだ。あの藪の中に存在する感情と言うのはやはり魍魎魍魎の代わりなのかもしれない。

結局のところ真相というのはそう簡単に暴けるものではなく、もちろんのこと私も藪の中を解き明かすことはできなかった。そして唯一、私に言えることがあるとすれば私たちの暮らす世界も、また藪の中であるということだろう。どうやら真相を知るには、もうしばらく藪の中で生きていく必要があるらしい。

(「藪の中／芥川龍之介著」 講談社 2009年)

## 崩れる山に立って

優秀賞 都市システム工学科 2年 藤本 真希

まるで、腰に手を当て仁王立ちするかのように立派にそびえ立つ山々。一方、山の一部が削り取られ、それでもかろうじて立っている山々。一度崩れてしまった山は、その傷を一生背負って生きていかななくてはならない。また、その山を頂に持つ川は暴れ川となって地域の人に避けられて生きていく。私はそんな荒廃山河を可哀そうに思うようになった。



私は、この夏休みに立山カルデラ砂防博物館に行くため、黒部立山を訪れた。そこで立山連峰の鳶山崩れについて書かれてある、この『崩れ』という本に出会い、手にとって読むことにした。この本は、作者の幸田文さん自身が実際に崩れの現場を訪れ、見たこと感じたことを思いのままに綴った本である。

幸田さんは七十二歳というご高齢にもかかわらず、実際に崩れの現場に訪れ、自分の目で見、崩れの圧倒的な大きさを伝えようとしていた。その苦労はただならぬものと推測できる。足腰が悪く、同行者の足を引っ張ってしまうと分かっているながらも崩れの現場を見に行ったことには、幸田さんの意志の強さが感じられる。足元が崩れ、谷へ落ちてしまうような怖さもあることなのに、身の危険も顧みず、山へ挑み、自分の目で確かめ、それを言葉で表現しつくそうとする姿には、感動を覚えた。また、幸田さんは、専門家から「崩壊とは、地質的に弱いところだ」と聞くと「弱い」というごく普通の言葉に敏感に反応し、「崩れ」という暴力的で、恐ろしいものに、歩み寄り、そっと手を置くかのように接しとても身近に感じ、「可哀そうに思えてくる」と表現していた。感受性が豊かな方だなあ、と思った。そして私も、崩れたくて崩れたわけではなく、人に恐怖を与えたくて与えたわけでもないのに、また、人に話を聞いてもらうことができない山を可哀そうに思った。

しかし、いくら崩れてしまった山を可哀そうといっても、その被害は相当なもので、崩れた山は土石流となって川を流れ、一気に家をも押し流してしまうほどの威力である。この暴れ川によって失われた命の悲しみは、はかり知ることができないと思う。また、人々は家や家族を失っただけでなく、生きていくことへの希望をも失ったように、目の前が真っ暗になったような感覚だったのだろう。そして、いつかまた、暴れ川となって再び襲い掛かるのではないかと、という恐怖におびえながら生きていく。

私はこの本を読んで、このような災害から、人々を守りたいと強く思った。そのために、この学校で、たくさん勉強して、色々なことを教わり、砂防についての知識を増やし、理解を深め、どうすればこのような災害から人々を守ることができるのか考えていきたい。

また、まるで幸田さんのように山をいたわり、川を愛し、私が生きているこの土地に感謝したい。そして、崩れる山や暴れる川のお世話をし、自ら歩み寄り耳を傾け、山や川と話をし、正面から向き合っていけるような技術者になりたい。そうして、付近の人々の不安や恐怖を取り除き、安心と、希望を届け、いつか災害で悲しむ人がいなくなることを目指して頑張っていきたいと思う。

「崩れ」それは、立派にいつもそびえ立つ山がみせるたった一つの弱さであり、私達人間が支えていかななくてはならないものだ。

この本は、私に私の将来を明確に指し示してくれた、大切な本になりそうだ。

(「崩れ／幸田文著」 講談社 1994年)

## これからのバリアフリー

優良賞 建築学科1年 金村 麗華

私たちはよくバリアフリーという言葉を目にします。しかしこの言葉が生まれ、そして世間に浸透したのはごく最近のことです。日本でバリアフリーが知られるようになったのは私が今回読んだ本のドラマ版「ビューティフルライフ」が放送された2000年頃です。美容師の主人公と車椅子のヒロインの恋物語は大ヒットし、また私たちに身体的に不自由な人がいかに日常生活を送ることが大変なのか、ということ投げ掛けて当時社会現象となりました。現在では交通バリアフリー法などの制定により、公共施設ではスロープやエレベーターの設置などの障壁の除去が徹底されていますが現在の日本は本当に障害を抱える人にとって暮らしやすいといえるのでしょうか？



残念ですが私は、日本は障害を持つ人にとって暮らしにくい国なのではないかと思います。例えば電車では優先座席が設けられていますが、健康な人が本当にその席が必要な人の前で平気で座っていることを何度も目にしてきました。商業施設の駐車場ではオープンから間もなく身体障害者用のスペースが埋まっていることもあります。実際に三宮や梅田などの人ごみでは身体の不自由な人に会うことはあまりありません。交通機関や建物にバリアはないはずなのにいったい何がそのようなことの要因になっているのでしょうか。私は日本はたしかに建物などの目に見えるバリアの除去は進んでいますが、目に見えない社会的、心理的なバリアの除去があまり進んでいないからなのではないかと考えます。小中学校などで道徳教育が行われているのにもかかわらず、どうしてこのようなことになるのでしょうか？

その答えがこの本の主人公である柊二にあるような気がします。彼はヒロインである杏子のことを最後まで障害者としてではなく一人の普通の人として接していました。普通の恋人たちのように外でデートを楽しみ、杏子が困り、手を貸してほしいと望んだときだけ助けてあげる。杏子の周りの人々や友人、家族は彼女のことを障害者として扱っていました。つまり、何でも壁となりそうなものはあらかじめ取り除くことで彼女の日常生活を支えていました。もちろんこれらの行為は彼女のためではありますが、どこかで彼女の意志を無視した行為を生み出す結果へとつながったのではないのでしょうか。また、このように扱われていたからこそ、柊二の存在が絶対的なものへと変化していったのではないかと思います。

「弱い立場の人を支えましょう」という言葉はおそらく万国共通でしょう。日本では「弱い人」を助ける方法として、ハードルを下げることを今までしてきました。しかしこの結果として普通の人と弱い立場の人との区別がはっきりできてしまったのではないのでしょうか。このことは普通の人には優越感を、弱い立場の人には劣等感を与えることにつながったのではと思います。バリアフリーが日本より進んでいる欧米では、ハードルの高さはそのままにして、共に壁を越えられる道を模索しています。弱い立場の人が受け身になるだけの社会ではなく、彼らも主体になれる社会。「障害は個性だ」と言い切ることのできる社会。このような社会が今を生きる私たちにとって一番理想的な社会ではないのでしょうか。

日本が本当の意味で先進国になれるのは、日本に住むすべての人が暮らしやすい世の中になったときだと私は考えます。この国にはすでに素晴らしい技術や設備があります。後は私たちの気の持ち方を少し変えるだけで、おそらくどの人にとっても格段に住みやすい社会へ変わっていくでしょう。「特別扱い」ではなく「仲間として受け入れる」ように。この考えを胸に私はこれから生活していこうと思います。

(「ビューティフルライフ」北川悦吏子著 角川書店 2000年)

## 学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

### 機械工学科推薦

- 501.26.N 熱力学
- 530.33.E 英日中機械用語辞典
- 530.33.N 機械工学事典
- 531.2.N 機械材料学
- 548.3.N 制御工学
- 雑誌 「日経ものづくり」



### 電気情報工学科推薦

- 雑誌 「エレキジャック」
- 雑誌 「OHM」
- 雑誌 「日経Linux」
- 雑誌 「トランジスタ技術」

### 都市システム工学科推薦

- 450.19.A 地球統計学
- 468.8.S 砂浜海岸の生態学
- 501.34.Y よくわかる三力「構造力学・土質力学・水理学」演習
- 511.7.Y 鉄筋コンクリートの解析と設計
- 513.1.M エース土木システム計画
- 681.8.T 地方都市圏の交通とまちづくり

### 建築学科推薦

- 501.34.S 構造力学徹底演習
- 518.8.J 住民主体の都市計画
- 518.85.F 「屋上緑化」完全ガイド
- 519.8.Y 生態系サービスと人類の将来
- 527.0.S はじめて学ぶ建築構造力学
- 524.26.N ガラス建築

### 一般科目推薦

- 311.7.B 選挙の経済学
- 331.0.S 幸福の政治経済学
- 413.3.T パソコンらくらく高校数学微分・積分
- 413.3.Y 実例で学ぶ微積分知恵袋
- 414.5.T パソコンらくらく高校数学図形と方程式
- 726.1.Y あさきゆめみし 全10巻
- 913.6.T ちくま日本文学 全40巻
- 雑誌 「CNN English Express」
- 雑誌 「大学への数学」

詳しくは、図書館HP (<http://www.akashi.ac.jp/lib/siryousuisen09.htm>) をご覧ください。

## 利用ランキング 2008.10.1 - 2009.9.30

### —図書—

- ① 16回 「土木材料学 新版」
- ① 16回 「聖女の救済」
- ① 16回 「構造力学徹底演習」
- ④ 15回 「線形代数」
- ④ 15回 「大学編入試験問題数学」
- ④ 15回 「土木材料学」
- ④ 15回 「ガリレオの苦悩」
- ⑧ 14回 「エース建設構造材料 改訂新版」
- ⑨ 13回 「ハリー・ポッターと死の秘宝」
- ⑨ 13回 「TOEIC テスト新公式問題集」
- ⑨ 13回 「コンクリート総覧」
- ⑨ 13回 「土木材料コンクリート」

### —DVD—

- ① 17回 『ハンコック』
- ② 15回 『ダイ・ハード 4.0』
- ③ 14回 『恋い空 きみは幸せでしたか?』
- ③ 14回 『ラスベガスをぶっつぶせ』
- ⑤ 13回 『プリズン・ブレイク 1(2)』
- ⑤ 13回 『人志松本のすべらない話』
- ⑤ 13回 『20世紀少年』
- ⑧ 12回 『水曜どうでしょう サイコロ3』
- ⑧ 12回 『プリズン・ブレイク 1(1)』

### —雑誌—

- ①「新建築」②「新建築.住宅特集」③「住宅建築」
- ④「Newton ニュートン」⑤「A+U 建築と都市」

## 図書館利用状況 (平成16年度から平成20年度)

項目 / 年度			16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
年間	入館者数	時間内	54,993	44,711	39,850	39,449	35,768
		時間外	13,749	11,724	11,116	8,681	8,955
		計	68,742	56,435	50,966	48,130	44,723
	AVルーム	計	3,948	3,987	3,272	3,720	2,839
	貸出者数	計	4,083	4,140	3,670	3,557	3,382
	貸出冊数	計	8,419	7,850	7,188	6,876	6,683
	開館日数	年間	281	286	294	295	291
一日平均	入館者数(時間内)		196	183	163	160	147
	入館者数(時間外)		60	50	46	36	38
	AVルーム		14	14	11	13	10
	貸出者数		15	14	12	12	12
	貸出冊数		28	27	24	23	23

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30

